

貧兒保育の話

(一)

二葉保育園 徳 永 恕 子

二葉保育園は設立者の野口幽香、齋藤峯子兩先生が學習院女學部幼稚園に奉職せられて居りますので、上流社會の子供に親しみ深き所から、その反對の下層社會の子供の悲惨な境遇に眼が付き、彼等にも同じ樂園を與へたいといふ同情の念が動機となつて設立せられたのであります。明治三十三年からずつと今日まで引續いて來て居るのであります。尤もその頃は麴町下六番町に家賃六圓の借家をして、近所から六人の子供を集め、届けだけすませて、名ばかりの開園を致しました、二葉といふ名の起りは、細川男爵作歌幼稚園保母合唱の歌の中に、「二葉の撫子さかゆく園生」といふのがありましてそこからとつたのであります。その後、土手三番町へ移轉し、明治三十九年に現

在の四谷鮫ヶ橋へ新築移轉したのであります。園の名は初めは二葉幼稚園と申して居りましたが大正五年から二葉保育園と改名することにいたしました、それは事業の性質が段々と純粹の幼稚園といふ意味から遠ざかりまして、其筋の規定せられた規則に従ふ事が困難になつて參りましたことも、いろいろの理由の内の主なる一つであります、本園の目的が他の幼稚園の様に子供を教育するだけに止まりません爲めに親の便宜上どうしても三年以下の者をも、甚だしきに至つては二歳未満の者をも收容せねばならぬ事情に幾つも遭遇しますので、それ迄にも幾分默許して頂いて居りましたが、段々とその數はふえる許り、いつその事公然と三年以下の者までをも收容出来る様に性質を

變へやうといふことになりました。即ち従來は教育の部に屬して居りました事業を今度は純救濟事業として内務省の所轄に歸することになりました。そこで事業の混同を避けるために幼稚園の名を更ためて二葉保育園といふ事にいたしましたのであります。

生活の落伍者たる細民の多數は、不規則と頽廢と自暴自棄とから、向上進取の氣性を失ふのが通例であります。これらの人々にとつて唯一の慰藉となり光明となる者は、貴むべく又愛すべき未來ある彼の人々の子供であります。彼等はこの子供の爲めに働き、この子供の爲めに奮發して、辛うじてその自棄墮落より救はれてゆくのであります。が、生れながらにして何の罪もなく只この親の子と生れた爲ばかりに、あらゆる悪い感化のうちに生ひ立ち、捻け曲つた習癖に慣らされて、果ては世の中の厄介者となり、社會に迷惑を及ぼす事になるのでございます。二葉保育園はこれらの

子供を家庭から引離し、教育的に保護を與へて、眞面目な、正直な人間に育て、やり、一方は又足手まとひになる子供を預つてやつて、親の勞働を十分にさせてやりたいといふ、此二つの目的から設立せられたものに外ならないのであります。

私共は又かねてより鮫が橋に貧兒收容の満足を得ると同時に、市内至る所に散在して居る同種部落に對して、せひ、この幸福をわかちたい必要と希望とから、其所々に分園設立の責任を感じて居るのでございます。

私共が新宿南町に分園を設置したことをお話しする前に、私共の事業の對象となつてゐる貧民窟が如何にひどいものであるか、従つて又これが救濟の如何に急務であるかを皆さんに分つていたいたために、貧民窟の状態を一通りこゝで申述べることが便利であると思ひます。

扱、東京に於ける貧民なるものは諸處に散在して居りまして、あちらには幾千人部落をなし、こ

ちらには數十戸一團となり、市中にも市外にも特殊の生計を營んで居ります。

私共は東京に於ける貧民窟の中でも一番ひどいと思ふ處と淺草公園の夜中の有様、即ち不良少年と浮浪人とが夜を明かす状態とを視て來たことがあります。其中に淺草の田中町と云ふ處に五十戸許りの一團があります、その實況を一つ申上げてみませう。こゝはトンネル長屋と稱へまして、大きな長屋の中央に縦に長く幅三尺のトンネルのやうな道がつけてあります、それを中心にして左右に肋骨の如くしきられ、そこに二疊の室、三疊の室が列び、中には一疊のものもあります、トンネルに向へる入口のほかは三方壁で、やつと一ヶ所の窓がありますが、窓の外は直に他の建物に遮られ、風通しのないのは申す迄もなく、私共の夢にも想像し得ない程光線が不足して居ります。先づトンネルの端から這入りこみますと、中はまづくら、人の居るのも下駄のあるのもさつぱり見分

けはつきませぬ。そろり／＼と歩を進めまして、やう／＼暗いのに慣れて來ますと、初めて兩側の部屋に人間の居るのが見えて參ります。眼を据えてよくみますと、男も女も、親も子も皆裸で、どの部屋にも、どの部屋にも、ごろ／＼と寝て居ります、二疊の間に四人も五人もが、からだとからだと相接し、足と頭と相觸れあつても、彼等は尚熟睡して居ります。南京蟲のために睡ることが出來ぬと訴ふる者もあれば、足も手も一面に化膿して仰臥した儘ギャ／＼と泣いて居る子供もあります。二疊の間に五人の子供が母親のまはりに取りすがつて居るのを何かとみますと、恰度食事をして居るのでありました。十二を頭に赤坊迄五人の子供、着物を着て居るのは赤坊許りで、ぼろ疊の上にごろりと寝かしてあります。母親は小さな井に御飯の入れたのを持ち、五つ位と四つ位かとも見える二人の子供は、小さなお茶呑茶碗のからつぼうのを持ち、左右より母親にすがりつき、御飯

をくれとねだります、母親は容易に與へませぬ、しきりに泣きますが尙與へませぬ、兄と姉は此光景をみて一言も發しませぬ、只一口でも自分にまはつて來るのを待つてるかのように見受けられま、父親はと聞けば、日雇人夫で一日四十錢の收入、其内五錢は家賃一日の日がけと申事、而かも雨が降れば彼等の收入は皆無となり、お天氣のよい日も尙仕事の得られない日がいくらもあるとの事です。日雇人足などの受負人は澤山に人夫を列べて置いてからだのいゝのから選つて行く、といふ有様ださうですから、一日四十錢といふ此收入も得られぬ日が少なくないと聞くに至つては、果してどんなにして彼等は生きて居るのかと、疑はざるを得ぬ次第です。勿論收入の無い日は、彼等は食へずに寝て居るさうです。絶食、きいてさへ恐ろしい此文字が事實に現れて、一日はおろか二日も三日も續く時などには、まあどんなでありませうか、大人は尙これを忍び得もしませうが、頑

はない子供に餓えて泣かれる時の親心、まあ考へてみて下さいまし、此際誰か方法をつけて世話をしてやる人がないならば、悪い心の起るのも無理はない、人の物を取つてゝも、可愛い子供に一口の満足を與へてやり度いと思ふ程になるのは、當然の成行ではありますまいか。しかも此二疊の家族の一人の子供は、普通の能力はないらしい表情が明かであり、惣領の男の子も學校へは行かぬと申します。彼等の前途を思ひつゝ、更に淺草公園の不良少年團の深夜の状況をみます時に、一種の恐怖に打たれて、彼等が社會に及ばず後來の悲劇に戰慄せざるを得ませぬ、子供だと思つて中々侮られませぬ、もう八つから不良少年の仲間入りをするさうです。石の上でも草の中でも、ごろ／＼と寝て居るかと思ひますと、巡つて來る巡查を認めてこそ／＼と逃げてあるく其敏捷さ、親もなく家もなくたべる物もなく、野犬か何かの様に生きて育つて居ります。浮浪の果はどうでありませう

か、世を恨み人を羨み、盗みをし火を放ち、一度心が動けば爆裂弾を投ずることをもいとはないといふ事になります。何が恐しいと申してこんな恐ろしい罪惡の製造所が、東京中に幾ヶ所も散在して居ると云ふことは、誠に驚くべく、戦慄すべき問題ではありますまいか。かゝる光景を眼前にみせられた私共は、血湧き肉躍るとは誠にこのことでありませう、あゝ自分達の贅澤さ、世にはかゝる子供もあるものを、これも神の子、わが同胞ではあるまいか、牛や馬でもこんな生活にはたへられまいものを、人間と生れたのは果して幸か不幸か噫乎。

私共はこれを見て如何に同情してやつたとて、泣いてやつたとて、何の役にも立ちませぬ、私共は云ふよりも、泣くよりも先づ救ふ方法を講じてやらねばなりません、善を知つてせざるは罪なりときゝます、何不自由なき私共が、是等の貧しき人々の爲めに力を盡すのは當然の義務ではありま

すまいか。

斯くて私共は鮫が橋の本園以外にも、早く何處ぞへ分園を設けて、そちらをも經營して行きたいといふ決心を愈々固くしたわけであります。

そこでまづ第一に適當な候補地として一二年來眼をつけて居りました新宿南町と云ふ處に調べを進めてみたのでございます。

こゝは近年市内の整頓につれ、自然に落ち集つて來た細民窟として有名な所にして、所謂共同長屋が四百數十戸埋立地に建てられ、二千餘名の落伍者が集合し、慘憺たる有様は鮫が橋以上ともいふべく、誠に驚くべき状態になつて居ります。度々視察するに従ひ、益々適當な場所たることが確められ、せひ、此地にと決心するやうになりました。ところへ同地の有志家安藤廣吉氏に紹介せられました、話は次第に進み、同氏の熱心なる後援斡旋の下に、昨年十一月からいよく分園開始の運びとなりました。

以上は細民の状態をお話すると共に二葉保育園

の沿革をざつとお話したわけでございます。

當保育園の概則を次ぎに掲げてみます。

一、三才前後より學齡迄の貧民の子供を保育し兼ねてその父母を向上せしめるのが目的。

二、保育の項目は遊戯、唱歌、談話、手技など

三、毎日預る時間は午前九時から午後四時迄、

七時間が一般の定め、但し家庭の事情により

朝はいくら早くからでも迎へ、夜も遅くまで

預る、日曜日、祭日も預るのもある。

四、お休は日曜日、大祭祝日、冬休、夏休（冬休、夏休は便宜に日を定める）

五、入園望みの者は住所、姓名、年齢、父母姓名、年齢、職業、収入、家族數など申出させ

調べた上適當と認められた者を入れる。

六、定員は本園三百人まで、分園は百五十人位

まで收容することが出来る。

七、保育料はいらぬ。幼稚園監督の下に毎日貯

金せねばならぬ。

八、毎月二回の親の會には兩親の内、どちらかが出席せねばならぬ。

以上の如く八ヶ條の規則の様なものがあります。が、いづれも抜き差しにならないやうな嚴重なものではなく、臨機應變、極めて自由に取計つて居ります。以下少しく規則の説明を試みてみませう。

一、世の劣敗者として、社會の裏面に隠されながら、尙生きて行かねばならぬ彼の人達、毎日く眼前のパンにのみ心は一ぱいになつて、少しの餘裕のないのさへ随分あはれな生涯と云はねばなりません。中でも其中に生ひ立つてゆく子供の上に一度考へ及ばしますと、あはれと云ふよりもむしろ戰慄しないでは居られぬ問題になつて參ります。第一に生れ落ちるとから食物の不足です、子供に餓ゑさせる位性質を曲げさせるものはありますまいが、これが誰の上に

も避け難い境遇なので、營養不良、無教育、不潔、不道徳とあらゆる悪い事の中で、いやでも應でも育つて行かねばならないこれらの子供の行末がどうなるものかは想像するに難くはありませぬ。實に泥坊、人殺し、火つけ、などと恐ろしい犯罪人の玉子はこの様な社會で毎日育て上げられつゝあるのが事實であると知つた以上、誰しも黙つて居られないではありませぬか。

そこで二葉保育園は其幼い子供をなるべく悪い感化の少い内に家庭から引離し、日當りもよければ風通しもよい、花の咲いてる中でかけつことも自由に出来るといふ心持のよい處で、充分に子供の本性に適ふ満足を與へてやり度い、どうか身も心も健かに生ひたつて大きくなつたら良民として正業に就く者であらせ度い、貧しくとも正しい清い生涯を送る様に保護してやり度いとの希ひから成りましたので、一方から考へれば無教育な親や罪惡にとりまかれて居る彼等の

社會から、いつそ子供を取り上げてしまひたくもなる、けれどもいくらわからなくとも、親は親蚤や虱に攻められながらも相抱いて眠る其間に親の方には望が出来、子供の方には親を思ふ情愛が養成されると云ふ妙味が存するので幼稚園として晝の間だけなるべく永い間預るのが最適當な方法と考へられます。

また一つには親の方を思へば、手足まとひの子供を終日引きとつて其間に一生懸命働かせ、一面には私共が親達につとめて接觸し指導して、精神上にも物質上にも幾分でも立ち優つた生活をさせ度いと思ふので、こんな有様に親と子の兩方面から救はうと云ふのが私共の希望で努力して居る處なのであります。

二、保育の項目と云ふのは普通幼稚園と餘り變つた事もありませぬ。中にまづよそと違つて居りますのは手技の一つとして袋張りをさせる事です、これは寄附雜誌を裁つて置いて、大きい

や小さいのや袋を張らせませす、そして百枚七厘とか一錢とかいつたねだんで、お菓子やに買つてもらひます、それは上の組だけの仕事で、其お金を一年間ためますと、三月卒業前に動物園へ行く時の電車買切りの代になり、残りで記念樹を植ゑたりいたします。小さい時から働けばお金になるといふ事の實際教育の積りで居ります。

三、保育時間は九時から四時迄の七時間が一通りの定めにして居りますが朝は早くから門をあけて、親の仕事の都合でいくらでも早くから迎へてやります。母親のない者で父親の夜働きに出る者などもありますからそんな者は夜分九時でも十時でもおやぢの仕事の歸りに迎へに来る迄預つて寝かせて置きます。中にはいたいけ盛りの子供二人も三人も残して母親(或は父親)が逃亡した様なものもありまして、上の子と云つても小學校の一年か二年、そんなのは兄弟相携へ

て早くから参り、兄弟は園から半日の學校通ひ先生行つて参ります、只今とまるで家の様な氣で居ります、勿論こんな事情のは日曜でも夏休みでも預つて置きますから、十人内外子供はいつでも来て居ります。

四、お休は日曜大祭祝日は前から休んで居りましたが、夏休と云ふ事は近年から始めました。幾度もいろいろ経験して見ましたが、結局休む方がよいと云ふ事になりました。一口に申せば先生にも親にも子供にも變化になりました、先生には休養が出来ますし、恩恵に慣れ易い親と子とは休中の難義の爲に休後の恩恵が新たになる、と申した風で、二十日間の休みが餘程いゝ様に考へられて参りました。

五、入園志望者は家庭の狀況、と申しても家族の數子供の數收入職業生年月日など書き出させまして、一應訪問し實狀に接した上で適當と認められた者から許します、永く此土地に住んで居る家

などでは訪問に参りますと、そら先生がおむかへに來たとか、あたいはもう少し大きくなつたら行くのだなど申してもう其年頃になれば當然はある権利があるかの様に幼い子供がたのしんでまつて居ります、新たに他所から移轉して來て困つて居るのなど見ますと同じ長屋の人達が直ぐ紹介してつれて参ります。どの位の程度かると標準を定めることはとても出來ませんが只表通りに住んでる者は入れないと云ふことだけは表むきにきめて居ります。

六、定員は今の建物では二百五十人位を適當と考へて居りますが、近處の子供は全部收容したいと思つて居りますから三百人迄は容れうる積りで居ります。毎日の様に人數は動きますが大抵二百六七十名の間に居ります。

七、保育料はとりませぬが、幼稚園監督の下に毎日貯金せねばならぬ事になつて居ります。普通は毎日壹錢宛持つて來させまして、其内五厘は

子供のおやつに致し、五厘を切手貯金にいたします。家に居ればどうしても二錢も三錢も小遣をつかうさうですから、毎日一錢持つて來る事は左程困難ではない筈であります。尤冬枯れの彼等勞働者間に一般仕事のない頃などには一錢出來ぬ爲に休ませるなど云ふのもありますから、そのは事情を調べて許してやる事もあります。中には二錢も三錢も持たせてよこすものもあります。其お金は卒業の時でなければ出さないうことにきめて居りましたが、いろいろ其弊をさとりましたので、近頃は自重して自分のものをつかう様に其下した原因の相談にあづかり適當と認めたと上は幾度でも下すことを許す、其代り只義務として一錢を持たすだけでなく一生懸命多くの貯金を心掛ける様にと方針をかへましたので親達もだん／＼其氣になり暮のためにとか、冬枯れの爲になど、僅ながらも特別の目的をたて、預ける様な者も出來て参りました。

卒業の時下げたものは其中で紀念の寫眞を買ひ、あとは學校へ行く爲の着物の一枚もこしらへます。

八、毎月一日と十五日の夜が親の會定日になつて居ります。入園の始め月二回の集りには親の義務として出席せねばならぬ事をよく約束いたします。毎回かなり集ります、多い時は百五六十人、ごく少い時でも六十や七十は出席いたしました。一日働いた上に御飯をすませて來るのですから時間など中々きめられませぬ、大方集るまでは保母が自分の組の親達と懇談して居ります。凡を集つた頃連れて來た子供を集めて遊戯や唱歌をさせて見せます。これは親達にとつて餘程樂しみと見えてたまにやめますと催促すると云ふ有様、それから親達に讚美歌を教へたり聞かせたり、なるべく心を集注させて後園長の宗教、教育の談、ごく平易に話さねばわかりませんから中々困難です。こんな風にして居りま

す間にわるいはやり歌の代りに讚美歌でも口ずさむやうになり、お味噌や豆の效能をのべれば翌日のお辨當に早速實行されると云ふ工合に少しづつ變つて參ります。近頃は父親の出席が大分多くなつて參りました。

以上は二葉保育園の諸報告書を基として、いろいろ私共の事業に就てお話したのでありますが、次ぎには新宿の分園に收容しました銀三といふ少年を例に取つて、貧兒の保育に關する經驗談をお話し致しませう。(文責在記者)

〇お断り

菅原先生の「色彩の心理」は先生が一寸お加減がわるかつた爲めに本號だけ休載することになりました。(記者)